



人権参観日・人権集会

11月15日（土）に人権参観日・人権集会を行いました。大勢の保護者の皆様にご参観いただきありがとうございました。

人権参観日では、やまぶき学級は、パラリンピックで有名になった「ボッチャ」をみんなで楽しむことで、友達と一緒に活動することのよさを味わいました。1年生から6年生までは全て道徳科の授業を行いました。1年生は、個々のよさ、長所に気付く活動を行いました。2年生は、困っている



人、弱い立場の人に対して温かく接することの大切さを学びました。3年生は、自他の特徴をプラスの方向で見つめ直して、自己肯定感を高めました。4年生は、「ありがとう」



を伝えることの大切さ、助け合いの重要性を学びました。5年生は、自分とは異なる意見や立場の人も尊重することについて話合いました。6年生は、「しあわせ」について考え、「多様なしあわせ」があることに気付きました。



前号でお伝えしましたが、人権とは、「全ての人々が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」あるいは「人間が人間らしく生きる権利で、生まながらに持つ権利」（法務省人権擁護局「人権の擁護」より）のことです。今回学習したことは、どれも「人権」について考えるきっかけになったのではないかと思います。私たち一人一人には人権があり、それを互いに尊重していくことが、よりよい社会につながると考えています。今後の社会の担い手となる子どもたちが、より高い人権意識をもってよりよく生きていくことを期待しています。

人権参観日の後は、人権集会を行いました。最初に、全校で「友だちはいいもんだ」を歌いました。子どもたちには、歌詞の中にある「みんなはひとりのために、一人はみんなのために」活動できる人をめざして育ててほしいと思います。

次に人権標語の発表を行いました。各学年で選ばれた標語は次頁に掲載しています。



それぞれの標語の中に、人権に対する思いが表れています。子どもたちには、これらの標語を心に留めて、今後の考え方や行動に生かしてほしいと思います。

人権集会の最後は、講演会。濱田斉子さん、濱田晋太郎さんをお招きして「自閉症 それがどうした！」という演題でお話をしていただきました。晋太郎さんは、潮見小学校のやまぶき学級の出身で、現在、松山空港で勤務をされています。これまでの生い立ちを基にしながら、母親の斉子さんが、相手をよく知り、互いのよさを大切にすることの重要性を伝えてくださいました。晋太郎さんは、自身の得意なことや頑張ってきたことを楽しく伝えてくださいました。

子どもたちは、真剣に、時には笑顔で話を聞いていました。講演後の晋太郎さんの回りには人だかりができて、子どもたちが握手を求めています。講演の内容を子どもたちなりに理解した結果ではないかと思います。

11月の生活目標は「言葉づかいを整えよう」です。講演内容の中にも、困っている人に対して「大丈夫?」「手伝おうか?」という声掛けの重要性が伝えられていました。11月の後半は、これまで以上に思いやりのある、温かい言葉遣いが聞かれる潮見小学校であってほしいと思います。

これも講演の話題に挙がっていましたが、この日は、潮見のシンボル「ダンちゃん」の命日。ダンちゃんの命を守るために、みんなで協力をして助け合ったのも、潮見地区での出来事です。参観日の授業で学習したこと、「友だちはいいもんだ」の歌詞、人権標語、講演内容、生活目標、ダンちゃんの命日、それぞれを結び付けて考えることが、人権意識の高揚につながると信じています。今回講師としてご協力いただいた濱田斉子さん、晋太郎さん、本当にありがとうございました。また、保護者の皆様も多数講演会に残っていただきありがとうございました。ご家庭でも、参観日のことをきっかけにしてお話をしていただけるとありがたいです。

【各学年の人権標語（上から6年生）】

- 📌 やさしさを 分け合ううれしさ これからも
- 📌 作ろう 「ちがい」を認め合える社会を
- 📌 だれかやる そんなだれかに ぼくがなる
- 📌 一人ひとり 心ひらけば はながさく
- 📌 聞けてよかったあなたの本心
言えてすっきりわたしの気持ち
- 📌 あいさつを かわせばすぐ ともだちさ

